

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○ 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○ 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○ 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 済家会 グループホームふれあい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県島原市南下川尻町8189 - 2
記入者名 (管理者)	大町 静江
記入日	平成 20 年 1 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの目的である「地域の中でその人らしく暮らしつづけることを支援する」という理念を職員全員が理解し作り上げ、サービスの向上につなげている。	
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の中で、いかに地域の方々と共に過ごせるか、いつもの行きつけの美容院に行ったり、町内を散歩しながら、ふれあいを楽しんだり日々の生活の中で取り組んでいる。	
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月のグループホーム便りに職員の思いや理念、行事参加の呼びかけを記載し、又回覧板でもまわし、理解してもらえるよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	時々散歩に出かけたりしたときに、畑で仕事しておられる人達と立ち話をしながら顔なじみになり、お正月のしめ縄や飾り物などもいただいている。	○ 地域の行事に参加したり、ホームの催しにも参加していただきながら、もっと気軽なお付き合いができるようにしたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事でお祭り、鬼火、精霊船作りの見学、地域の方々といっしょにまんじゅうづくりをしたり又、グループホームの行事にも参加を呼びかけたりして交流につなげ、運営推進会議にも多くの方に参加してもらいたい。	グループホーム便りを回覧板にして回してもらいホームの様子をお知らせしている。現在は町内会の人たちも、毎月の便りを楽しみにしておられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム便りの中で「認知症の理解について」という欄をもうけて、認知症の説明を行い、また私達の日頃行っていることなどを報告したりした取り組みをしている。	○	もっと地域の人達と共に認知症についての理解を深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、これまでの自分たちの介護を見直すよい機会として受け止め、介護の質の向上に努めている。また外部評価の結果は、改善に向けて検討し実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営、生活状況、活動等を報告し色々な意見を頂き、サービスの向上や地域との交流にも役立てている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会等の組織の一員として参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居中の方にも活用されている人もいて、私達も研修会にも参加し勉強している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にも参加、また当併設病院の委員会の勉強会にも参加し、充分注意し防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を図っている。ご家族の不安、疑問等も尋ね、十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症が進み自分の意見が表出できない人が大半な中でいかにして貴重な意見を汲み取ることができるか、いつもケア会議などで話合い、家族会、運営推進会議にも図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時には声かけし、入居者の状況を報告したり、ケアプランの説明、ケース記録、金銭出納帳にもサインをもらっている。又突発的な変化や問題が起きたときは電話にてお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で運営推進会議にも参加していただき、今の運営状況の報告を聞いてもらい、それに対する意見、要望などの意見をいただき、グループホーム運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のケア会議で意見を出し合い運営に反映させている。急ぐときはその場で対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態や行事等にあわせた勤務状態にいつでも変更できるようにし対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員で馴染みのケアが出来るよう配慮しているが、やむをえない場合はきちんと説明し納得してもらえるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶ事を推進、外部の研修や講習案内は掲示板に掲示している。研修を受けたらケア会議のとき勉強会を開き全職員に周知し勉強している。	○	職員育成のため、職員各自に応じた計画的な学びの機会を確保していきたい。併設病院内の研修は参加しているが、外部の研修参加も進めたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームで組織している、グループホーム協議会の研修会や講演会に参加し、交流をもつことでサービスの向上につなげている又、レクリエーション等により交流も図っている。	○	他の施設との交流を持ち、記録の書き方等の勉強もしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会などを会議後に開いたりして職員のストレスの軽減を図り、また管理者は職員の話よく聞きながら環境づくりに努力している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの努力、実績、勤務状況を把握し、又各自が向上心を持ち資格取得が出来るよう配慮している。		職員の資格取得にむけた支援と労働環境づくりに努めたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用にいたるまでに、本人自身から生活状況等を把握したり、本人の思いを感じとり、信頼関係づくりに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、これまでのご苦労やこれからの生活の不安や心配事または要望などを聞き、家族の方々の思いが受け止められるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の実情や要望をもとに、必要としている支援を見極めながら対応している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にまず事業所を見学してもらい、また気軽に遊びにきていただいたりしながら、徐々に雰囲気になんか慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩である、という考え方を共有しており、色々なことを教えてもらえる場面をつくり、支え合い時には怒ったり、泣いたり、笑ったりと感情表出しながらかよりよい関係を築いている。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えながら、ご家族と共に喜び、共に楽しみ、又悲しみながらささえあう関係を築いている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している	外出や外泊、面会で家族と一緒に過ごされることにより、家族のきずなを大切に守りながらよりよい関係がきずかれるよう支援する。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ひとり一人のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれの行きつけの美容院に行ったり、なじみの人達との交流を持つたりして関係継続の支援をおこなう。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を把握しよりよい関係作りが築けるよう、お茶や食事の時間、レクリエーション等のときお互い会話を持てるよう配慮し、お互い楽しみながら支えあえるような支援をする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が入院などで一時的に利用を終了するときも、時々面会に行き話し相手や身の回りの世話などおこないながら関係を継続させるお付き合いをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中かで会話や行動、表情などからその人の思いや希望を把握し、又困難な人にはその人なりの支援を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の来訪時や本人に話を聞いたりして情報集収をおこない、これまでの生活歴また生活状態をみながら把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中かでの生活リズム、心身の状態、性格又その人の有する能力など現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケア会議で意見を出し合い検討し、また家族が来訪された時本人も一緒に話し合い意見をいただき、プランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし、プランの見直しを行っているが、変化や問題が生じた場合は本人、家族、必要な関係者と話し合い現状に即したプランに変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの実践、健康管理表は個別記録に記入し、情報を共有して介護計画の見直しに生かしている。	○	毎日のケアを実践したなかで、気づきや様子、結果まで記録できるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の暮らしの継続性を守る為にその時々状態、要望に応じた支援をおこなう。そのひとつとして医療連携体制を生かして受診や入院の回避、医療処置を受けながら生活の継続、重度化した場合終末期の入院の回避を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続していくために必要性に応じてボランティアや民生委員の方々との交流をおこなっている。	○	利用者の大好きな子供達との交流をもっと出来たらいいなあと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は必要ないと思われます。	○	在宅に復帰が可能となった場合はご協力をお願いする。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は必要ないと思われます。	○	必要性が生じた場合は、ご協力をお願いしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設している病院がかかりつけ医となっているが、本人や家族の希望にて昔からのかかりつけ医にお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院が認知症の治療病棟を持ち、専門医がいるので治療はもちろんいつでも相談したりできる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院であり、職員との馴染みの関係が出来ており、気軽にいつでも相談でき、医療連携も密にとれる体制になっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設病院と連携しながら情報交換を行っている。他の医療機関に入院されたときも情報を提供し、お見舞いしながら安心して過ごせるよう、また家族の方との情報交換をおこないながら、早期退院に向けて支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成し家族、医師、看護師、施設長を交えて話合っている。状態の変化があるごとに、家族や本人の気持ちに注意を払い、心の支えになるよう支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療スタッフ、ホーム職員が連携をとり利用者、家族が安心して終末期を過せ、その人らしい人生を終えることができるように取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護情報、生活情報を作成し家族やかかわるケア関係者に情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々のプライバシーには充分気を付け、言葉使いも尊厳を損ねないように配慮している。また個人情報については併設病院の個人情報委員会に出席し理解に努めている。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症が進み、希望の表出や自己決定が出来ない人にも、利用者に合わせたこえかけをしながら本人の希望や好みを把握し暮らしの支援を行っている。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、ひとり一人の体調、能力、またその日の気分などに配慮し、利用者の希望にそった支援を心がけている。	ひとり一人のペースを尊重する。スタッフが利用者に合わせた支援をおこなう。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るよう希望の店、馴染みの店へ髪のカット、パーマなどにでかけられるよう支援している。	誕生会など行事のときは、お化粧でおしゃれを楽しんでおられます。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じものを一緒に食べ、おいしいね、などと会話しながら楽しく食事し、準備や後片付けも出来る範囲で協力をお願いしている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査をおこない個々の嗜好の把握は出来ている。おやつは特に好みにあわせて、家族持ち込みのお菓子とか、職員の手作りのお菓子や特に最近では自家製のネギたっぷりのお好み焼きが好評です。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人その人の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。どうしても布パンツで無理な人には尿取りで様子みたりしながら失敗しないようにしている		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる体制にしているが、お風呂は1日置きでよいとの利用者の希望が多く、大体半分づつの人が1日おきに入浴されているようです。その日の状態や気分により自由に入浴されている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩やレクリエーションなどで、できるだけ日中の活動を促し、生活リズムを整え気持ちよく眠れるよう支援している。		近くに公園があり、休日になると遊びにきている子供たちとの交流が出来て、楽しく過される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時生活歴、趣味などの情報収集により、その人らしい、楽しみや気晴らしの支援をおこなっている。		部屋のモップかけ、洗濯物たたみ、職員と一緒にごみだしのお手伝いなど、それぞれその人らしく生活しておられる。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は小遣いは自分で管理されている、管理できない人は職員の支援で買い物に出かけ楽しんでおられる。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先の日当たりのよいところで日光浴をしたり、公園に出かけたり、また季節ごとの行事をレクリエーションで取り入れたり、足湯やドライブと希望を取り入れた支援をしている。		近くの公園で休日になると子供たちの遊ぶ元気な声がすると生き生きとした表情をされます。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の季節を感じるためにいろいろな所へドライブにでかけたり、家族会で花見に出かける支援を行っている。年に1回は必ず家族とともに過せる機会をつくるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに備え付けの公衆電話があり、いつでも使用できるようにしている。本人がダイヤル回せない人には支援できるだけ本人に話してもらうようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等の制限はせず、いつでも気軽にお茶でも飲みながら過していただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員養成研修も受け、職員全員にも周知し、正しく理解しており、拘束はしないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は一切鍵をかけず、センサー音で人の出入り(ドアの開閉)を把握している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確認のため、記録等は利用者の傍でして必ず所在確認ができるようにする。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて、注意を促したり、管理方法の取り決めをおこなっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとり一人のリスクを把握し、その人に応じた支援をおこなう。事故防止のためヒヤリハットを記録し、職員間で共有し安全対策に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生法や応急手当の研修も受け、マニュアルも作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院との合同で年2回利用者とともに避難訓練を実施し、またホーム内でも月1回避難訓練をおこない、点検、確認をしている。地震、水害時の対策もしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについてはご家族にも充分説明し、拘束のない暮らしが出来るよう対策を話しあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや様子観察をおこない、体調の変化や異変の発見に努め状況に応じ、医療受診につなげ、早期発見、対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更はいつでもわかるようにプラン、処方、記録簿を個々にとじスタッフの手元においていつでも確認できるようにしている。また薬の服用は間違いのないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックをおこない便秘予防対策として、水分補給やレクリエーション等で身体を動かすなどの働きかけをおこなう取り組みをしている。それでも便秘気味の方には医療処置をお願いしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの能力状態に応じた支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立作成でバランスが取れ、管理された食事で健康管理をしている。また食事量のチェック、食べやすい大きさ、その人に応じた食事内容にしている。水分の補給は常に行っている。		おやつは利用者の好きなものや、季節のものなどできるだけ手作りしており、喜ばれている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は研修会や併設病院の勉強会にも参加し、マニュアルに沿って実施し感染防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理のため調理器具等は常に除菌し清潔にして使用している。使用した食器類は洗浄し乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	病院の中にあるという環境で出入りが限られてしまいます。いかにして利用者の家族や近隣の方々が出入りしやすいようにするか職員全員で取り組んでいます。玄関入り口にベンチを置いたり、花を飾ったりと。		利用者と職員でチューリップの鉢植えを育て、お互い協力して水やりなどして楽しんでいます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日ごろ利用者と職員で作成した壁画、カレンダー、写真、季節の草花などを飾り、五感や季節感を取り入れ、居心地良く過せるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長い廊下を利用して椅子を置きそこで雑談したりして交流の場になつている。またゆっくりくつろげるような音楽をかけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋には使い慣れた家具を置き、家族の写真を飾り、またその人の好みのものをおいたり、一人ひとりに合わせた部屋づくりでこちよく過せるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、掃除の時に換気をおこない、各部屋の温度は外気温を考え、また利用者の状況に応じた温度に調節している。職員が一番注意していることは、臭いで特に尿臭には気を使い、こまめに掃除している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の低下にあわせて、手すりをつけたり、洗濯物干し台を低くしたりしてできるだけ、自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋やトイレが解からない人には、わかりやすいような目印をするなどしてその人その人の能力に応じた環境整備をおこない、不安を取り除く工夫をしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの庭でバーベキュー、焼き芋、日光浴など季節に応じた取り組みをしている。玄関前にはテーブルと椅子を置き散歩後に一休みしたり、天気のよい日はレクリエーションしたりと活用している。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
		○	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
		○	たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
		○	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは医療機関との併設であり、併設病院には認知症治療疾患病棟を持ち、認知症治療の専門医がおり治療に当たっています。また認知症に必要な機能訓練は作業療法士が行っています。。常時当直医がいて状態急変時はいつでも対応できるよう医療連携が取れています。こういった医療との連携で体調の悪化も早期発見治療と安心して生活できます。